

【(8) 教材・教具】

⑧「付箋を活用している」

《つまずきの背景》

C 記憶力の弱さ、I 目と手の協応動作の困難さ、O 見通しを持つことの困難さ

《解説》

付箋の活用方法としては、「辞書で調べた箇所に付箋を貼り再度開く」「自分の意見を班や学級で言う前に付箋に書き出す」などがあります。調べた箇所に付箋が増えることで調べることへの意欲につながります。また、各自が付箋に意見を書き出すことで、個々の考えを小集団の中で共有することができます。

学級の中には不器用さから、言われたことがすぐにできない子どもがいる場合があります。教科書等を開くのに時間が掛かる場合には、学習したところに付箋を付けておくと開きやすくなります。また、基礎が定着せず公式等を忘れてしまいやすい子どもがいる場合は、付箋にヒントを書いてノートに貼るようになると自分で考えるときの助けになります。

付箋の特徴は、自由に移動できるところです。子どもが、必要に応じて付けたり外したりすることで子どもが考えをまとめやすくなります。目的に応じて付箋の大きさや色を使い分けると効果的です。

【工夫点】

- ・調べたところに付箋を貼る。(小中高 工夫例 59)
- ・個人の考えを付箋に書き、小集団でまとめる。(小中高 工夫例 60)
- ・各自が発表する前に自分の考えを付箋に書かせる。その際、自信がある答えはピンクの付箋に、少し自信がある答えは黄色の付箋に、自信がない答えは青の付箋に書かせる。(小中高)

◆工夫例 59 「調べたところに付箋を貼る」



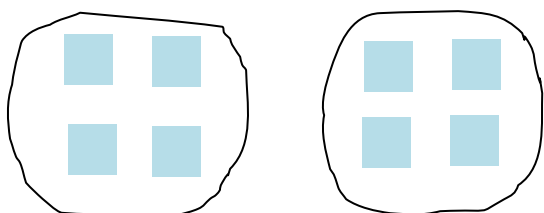
《国語 漢字調べ（小学校4年生）》

辞書に付箋を貼って調べた単語を書き込むようにします。付箋が増えることで調べることに意欲的に取り組みます。辞書を引くのが遅い子どもは、グループで協力しながら行います。

教科書の音読は、学校で読んだところに付箋を貼り、家庭学習では、付箋を貼った続きから読んでよいことにすると読むことが苦手な子どもの負担を軽減することができます。

◆工夫例 60 「個人の考えを付箋に書き、小集団でまとめる」

テーマ：『反対意見に対してどのような提案の仕方がよいか』



《国語（小学校）》

あるテーマに対する考えや思いを各自が付箋に書き込みます。それを紙やホワイトボードに貼ります。各自が書いた付箋を見ながら、自分の考えを出し合い、グループで意見をまとめます。